

ものだ。その左側に列された文字を見るに、

續 康曆

二年十月廿四日

もことも此の紀年の文字は明確さを欠く点もあ

このように記したものと思われる。康曆とい

朝時代の

らん北朝

たもので

貞和・

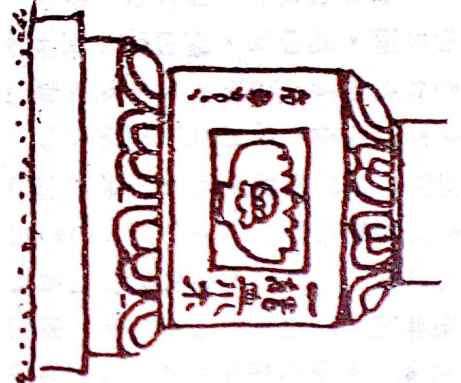
康曆・

など、搦

よく刻

これらの

物のもの



の治下にあつた当地方としては当然である。

しても宝篋印塔にしても、「一結衆」とか「

などの文字が刻まれてあるものは、個人の墓

廣く一般に冥福を祈つた供養塔として建てた

阿彌陀村の四基。右の絵は私の写生)

祭

……加印地方の秋祭……

西 庄 勝 也

播磨地方の秋祭は、神輿・屋舎を繰り出して、他地方

にまで喧傳されている程度はしく、又所によつては、興

業的な意味まで持つようになっているものがある。元の

形は決してそんなものではなく、もつと素朴なものであ

り、日本の古い原始的な信仰に根ざしてあり、従つて古

くさかのほれば日本全体から見ても共通なものであり、も

つといえは、論理が少々飛躍するが、琉球諸島の古神道

と非常に相似た面をもつものである。

秋祭の意味は、農作物の收穫を神と人が相食するた

めに、村落共同の中に神を降す式であるので、收穫後には

なさるべきものが、この地方では日時の上でずれて、早

くなつて來ている。これは霜月祭の方が古い形を残して

いることがわかる。加印地方の秋祭の中で特色のある古

い形の名残の主なもの、大体三つを数えることができ

る。その一つは所謂一つ物といわれる稚児であつて、南